

口唇裂・口蓋裂の治療プラン

—全国 111 診療チームにおける現況—

日本口蓋裂学会

口唇裂・口蓋裂の治療プラン —全国 111 診療チームにおける現況—

発刊にあたって

口唇裂・口蓋裂には新生児期から成人に達するまで多くの専門家による治療と長期的な経過観察ならびに管理が必要です。お子様が口唇裂・口蓋裂で生まれた場合、ご家族の驚きや悲しみは、計り知れないものがあります。日本口蓋裂学会では患者さんやご家族の口唇裂・口蓋裂に対する理解を深めることを目的として、平成 18 年 10 月に「口唇裂・口蓋裂手引書」を刊行しました。

現在、私たちはインターネットを通じて様々な情報を即座に得ることができます。しかし、情報が多すぎて逆に情報に惑わされ、不安が募ることも少なくありません。口唇裂・口蓋裂の診療についても同様のことが言えます。「口唇裂・口蓋裂手引書」にも記載されていますように、すべての施設で同じ時期に、同じ方法で治療が行われているとは限りません。病院の規模やチーム構成も異なります。診療チームが異なれば当然のことながら、チームの考え方の相違により治療方針や診療計画が若干異なることは否定できません。しかし、そのことは医療を受ける患者さんやご家族にとっては大きな不安となります。そこで日本口蓋裂学会では、平成 19 年 11 月から平成 20 年 2 月にかけて口唇裂・口蓋裂治療に対するチーム医療体制に関する実態調査を行い、併せて学会として各チームの治療方針・診療計画を把握し、小冊子として公表することにしました。

内容は、口唇裂・口蓋裂手術に携わる全国 324 の医療機関(形成外科 211 施設、口腔外科 113 施設)に行った片側口唇口蓋裂症例と両側口唇口蓋裂症例に対する各チームの治療方針ならびに診療計画に関するアンケート調査の結果です。調査項目は、①出生前診断、②小児科管理と臨床遺伝、③術前治療、④口唇裂手術の方法と時期、⑤初回手術時の裂閉鎖範囲、⑥口蓋裂手術の方法と時期、⑦言語聴覚士による言語管理の開始時期、⑧耳鼻咽喉科医による聴覚管理、⑨矯正歯科医による咬合管理の開始時期、⑩乳歯列期における矯正歯科治療(動的治療の有無)、⑪顎裂部骨移植術の時期、⑫チームの特徴、⑬チーム構成メンバーの 13 項目です。回答は形式を統一して記載しましたので、各診療チームの考え方や治療方針の特徴が把握し易いと思います。本冊子にはデータの公表を承諾された 111 診療チームにおける治療方針・診療計画を掲載しました。

今回の調査で口唇裂・口蓋裂診療を行う全ての医療機関の情報を把握できたとは言えませんが、治療内容を公開された診療チームを見ますと、現在のわが国における主な口唇裂・口蓋裂治療チームの情報を集積できたと考えています。

患者さんならびにご家族の理解をより深めていただけるように専門用語の解説を巻末に掲載しました。口唇裂・口蓋裂治療に際し役立てていただければ幸いです。

平成 20 年 12 月 1 日

一般社団法人 日本口蓋裂学会
理事長 西尾 順太郎